

令和2年度鳥取県立博物館事業の事業計画案について

事業番号	事業名	事業概要	備考 (変更点等)
1	企画展開催費	鳥取県の自然・歴史・美術分野の資料、作品、研究成果等や世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。 (1)自然: こんにちは変形菌、とつてもふしぎな生きものです。 (2)人文: 60's東京オリンピックとその時代 (3)美術: THE フィンランドデザイン展 ~自然が宿るライフスタイル~ (4)美術: ミュージアムとの創造的対話03 (5)美術: 岡本太郎とクルト・セリグマン	○マスコミとの実行委員会方式での開催することを継続予定。 ○令和3年度当初開催企画展の準備経費を令和2年度予算で要求。
1.1	企画展開催費 (R3分: 債務負担)	令和3年度に計画している企画展の準備を行う経費。 (1)自然: QooDZILLA!! 世界のクジラ展 (2)人文: とつとりの乱世—因幡・伯耆からみた戦国時代— (3)美術: 受贈記念 Kコレクション展 (4)美術: 東郷青児とパリに学んだ画家たち (5)美術: 巨匠を夢見た江戸の女性絵師たち	
2	博物館運営費	施設の維持管理、博物館を運営するための経費。 博物館が収蔵している約25万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。 文化財保護法改正対応のため、重要文化財等の複製資料を製作したり、指定文化財、脆弱資料を展示入替する新規事業(細事業: 公開承認施設機能維持事業)として外出しする。	○施設の維持管理 ・直流電源設備の蓄電池更新(備品: 4,950) ・空気調和機用加湿器の保守部品の購入(消耗品: 1,500) ・ガス給湯器(ミュゼ)更新(備品: 300) ・除草委託の面積増等(多目的広場の追加等) ・非常勤(看視・受付)接遇研修の開催 ○公開承認施設機能維持事業 ・展示ケースの製作 行灯型6,000(4,720) ・(新規)重要文化財の複製品の制作 ・(臨時)データロガーの更新 ・(新規)指定文化財展示入替1,000 ※非常勤職員に係る人件費は別途要求。以下、他事業も同じ。
3	博物館交流事業	中国、韓国、ロシアの博物館(河北省博物院、国立春川博物館、アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館)との交流や情報交換等を行う。	○(新規)モンゴル訪問経費 ○(廃止)河北省博物院交流20周年記念展の終了

事業番号	事業名	事業概要	備考 (変更点等)
4	自然事業費	自然部門(地学・生物・植物)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	○(新規)今年度寄贈を受けた貝標本の整理事業(3年計画)のため、新たに非常勤職員(動物)を雇用する。 ○(廃止)非常勤職員(地学)の終了
5	人文事業費	人文部門(考古・歴史・民俗)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、藩政資料の整備、修復・情報発信を行う。あわせて、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	○資料収集研究費 ・(新規)16mmフィルム保存用具購入及びデジタル化 643 ・安達清風文書整理・研究事業 1,154(763) ○常設展示費 ・(新規)兜の体験用レプリカ制作 385
6	美術事業費	美術部門(絵画・彫刻・工芸・写真等)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	
7	博物館普及事業費	県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。	○デジタルアーカイブ事業(図書館等との連携事業)
8	美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	鳥取県ミュージアム・ネットワークが実施する、①県内の美術館・博物館等における具体的な協力連携の取組、②各館の歴史民俗資料の保存活用機能を向上させる取組を支援することにより、県内の博物館等の連携基盤を確立してネットワークの強化を図る。	○(新規)美術:共同企画展の開催 ○アドバイザー派遣事業では、収蔵資料の保存・整理・展示に関する指導・助言に加え、実際の作業に当たっての実技指導を行うための経費を追加補助する。
9	鳥取県立美術館整備推進事業	PFI手法による美術館整備運営を効果的・効率的に実施するとともに、開館に向けて県民と連携した美術館づくりを行う。 ・県立美術館の整備・運営経費(サービス対価) ・PFI事業による円滑な導入推進のためのコンサルタント委託 ・普及啓発事業 ・「県民立美術館」実現に向けた地域ネットワーク形成支援補助金 ・関係団体、高等教育機関等との連携強化	○(新規)事業契約に基づくサービス対価 (債務負担 R2限度額141,028千円) ○(新規)PFI事業を円滑に導入させるためのコンサル委託 ○(新規)美術図書のカテゴリ配架を行う司書資格を有する職員の配置(非常勤職員 1名) ○学校招待(パス)の回数増 ○倉吉商工会議所青年部、倉吉短期大学等との連携強化 ○(廃止)事業者選考業務の終了

令和2年度企画展開催計画（案）

分野	企画展名（仮称）	会期
自然	こんにちは変形菌、とってもふしぎな生きものです。 【実行委員会方式（予定）】	令和2年7月18日 ～8月30日
人文	60'S東京オリンピックとその時代 【単独開催】	令和2年6月6日 ～7月5日
美術	THE フィンランドデザイン展 ～自然が宿るライフスタイル～ 【マスコミとの共催】	令和2年10月10日 ～11月15日
美術	ミュージアムとの創造的対話03 【実行委員会方式（予定）】	令和2年11月28日 ～12月27日
美術	岡本太郎とクルト・セリグマン 【実行委員会方式（予定）】	令和3年2月11日 ～3月21日

<令和2年度の主な取組>

①実行委員会方式での開催（3件）

- ・平成28年度（1件）、平成29年度（2件）、平成30年度（3件）、令和元年度（2件）に引き続き、報道機関と実行委員会を組織して開催することで、テレビCM等による広報を強化し来館者増を図る。

②その他

- ・THE フィンランドデザイン展については、マスコミとの共催を予定している。

2020年度企画展

「こんにちは変形菌、とってもふしぎな生きものです。」開催要項（案）

1 趣旨

植物でもキノコでもない変形菌。アメーバのような姿で動き、草のように伸び、キノコのように胞子を飛ばす。とっても不思議な生きもの変形菌は、普段気づくことはないが、私たちのすぐ身近なところで見るすることができます。

本企画展では、形や色が多様な変形菌のすがたやその生態や、変形菌とほかの生きものとのかかわりや理工系の最新技術との接点などを取り上げ、標本や映像展示をふんだんに取り入れ変形菌の魅力について紹介し、より多くの人に变形菌を知ってもらうことを目的にします。

また、変形菌研究の黄金期と呼ばれる昭和初期の昭和天皇や南方熊楠をはじめとする研究ネットワークの業績を標本や書物で振り返ります。また、時代が進み、今日では変形菌は生物のみならず理工系の研究でも扱われる生物となっています。かしこい単細胞と呼ばれる、もう一つの変形菌の姿も、巨大な迷路などを用いて紹介します。

2 会期：2020年7月18（土）～8月30日（日）（44日間、会期中無休）

3 会場：鳥取県立博物館 第1・2特別展示室

4 入場料：一般700円（団体・前売500円） ※次の方は無料：大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者、障がいのある方・要介護者等及びその介護者

5 協力：ミュージアムパーク茨城県自然博物館、国立科学博物館、鳥取大学、北海道大学、東北大学、宮内庁、南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰館、和歌山県立自然博物館、日本変形菌研究会、萩原博光、山本幸憲、高橋和成、高野丈、松本 淳

6 展示構成とおもな展示資料（予定）

<展示内容>

A：こんにちは変形菌

A-1 変形菌とは

単細胞と多細胞、変形菌は巨大な単細胞、生きた変形体、変形菌の分類学的位置

A-2 変形菌の一生

変形菌のライフサイクル、ゾートロープで見る子実体形成、科学映画「真正粘菌の生活史」

変形菌スタンプラリー、未熟子実体写真集

A-3 変形菌の仲間分け

実物標本、拡大模型、写真、線画

A-4 変形菌のからだのつくり

ジクホコリに見る体のつくり、子のう体のいろいろ、顕微鏡観察（軸柱、細毛体、胞子）

A-5 変形菌はどこにいる

ミニジオラマ（雪解けとともに見られる変形菌、鳥取県大山で見つかった変形菌、博物館周辺で見つかった変形菌）、変形菌の見つけ方、こんなところにも変形菌

A-6 変形菌を撮影する

マクロで撮影する、動画で撮影する、撮影体験（スマホで撮影する）

A-7 変形菌（子実体）のいろいろ

標本箱で多様な種類を展示、デジタル顕微鏡で観察体験、構造色を持つ子実体、変形菌曼荼羅

A-8 変形菌と他の生物

変形菌が食べる、変形菌が食べられる、変形菌を食べる

A-9 変形菌を飼う

A-10 変形菌に近縁な生き物

原生粘菌、細胞性粘菌

A-11 変形菌と間違える生き物

変形菌モドキ（菌類、地衣類）、変形菌ときのこの比較

B：日本の変形菌研究

B-1 変形菌に魅せられた人々

南方熊楠、昭和天皇、変形菌研究ネットワーク

標本、南方書簡、マンガ「猫楠」

B-2 メディアに見る変形菌

写真集、絵本、マンガ、映画

B-2 今日の变形菌研究

自律分散制御ロボット、変形菌が迷路を解く、変形菌が鉄道網を描く、自他認識、生態系と変形菌

C：変形菌とアート

音楽、造形

7 関連事業

- ・野外観察会「変形菌を探そう」

○月○日(土)10:00～15:00/会議室/講師：高橋和成・原紺 勇) (決定)

- ・講演会

「美しい変形菌 (仮)」7月25日(土) 14:00～15:00/講堂/講師：高野 丈 (決定)

「かしこい単細胞 (仮)」7月25日(土) 15:10～16:10/講堂/講師：中垣 俊之 (決定)

- ・トークと観察会

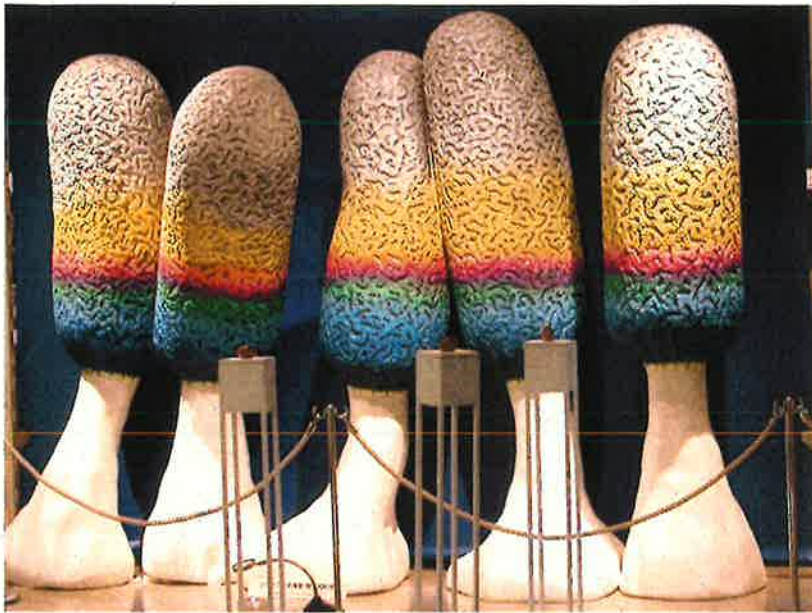
「変形菌・・・(仮)」8月2日(日) 14:00～14:30/講堂/発表：高校生物部等 (交渉中)

「世界は変形菌でいっぱいだ (仮)」8月2日(日) 14:40～16:00/講堂/ゲスト：増井 真那 (決定)

- ・ワークショップ「かわいらしい変形菌の模型をつくろう」

8月1日(土)10:00～12:00、14:00～16:00/会議室/講師：今村知世子/定員：各20名) (決定)

令和2年度企画展 展示予定資料



ジクホコリの1000倍拡大模型



写真で見る変形菌（子実体）のいろいろ



動画で見る子実体の形成

【歴史的標本・資料（抜粋）】

- 昭和天皇の天覧標本
- 昭和天皇発見の発見したオオギミヌカホコリ
- 南方熊楠愛用の顕微鏡
- 南方熊楠が昭和天皇へ献上した変形菌の副標本



南方熊楠採集標本（シロエノカタホコリ）



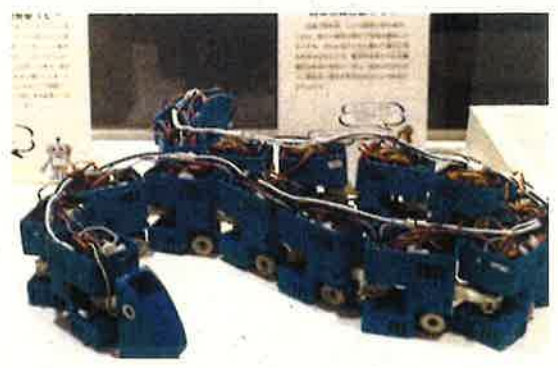
変形菌（子実体）の実物標本



変形菌の居場所（ジオラマ）



最短ルートを見つける変形菌



変形菌の心を持つロボット

令和2年度鳥取県立博物館企画展「60'S東京オリンピックとその時代」 開催要項（案）

1 趣旨

令和2年は、2回目の東京オリンピックの年です。昭和39年（1964）、アジア初の開催となった東京オリンピックはこの時代を象徴する国民行事であったといえるでしょう。

昭和30年代後半から40年代に高度成長期を迎えた日本の経済は、それまでの伝統的な生活様式を一変させました。これまでの日本の伝統的なものづくりから工場で大量生産されるようになり、日本の住宅事情、夢のマイカー時代、お茶の間へのテレビの浸透など生活様式や社会状況は変容しました。56年経った現在の日本の発展もこの時代から始まったといっても良いでしょう。

本展では、日本と鳥取県の1960年代の出来事、当時の国民生活資料を紹介します。そして、日本有数の昭和家電コレクターである富永潤さん（三重県伊賀市・昭和ハウス館長）のコレクションを展示し「60年代」を知る世代には懐かしく、知らない世代はわくわくする、ひと昔前の豊かな時代「昭和」を体感していただく展覧会にしたいと思えます。

2 展示内容

- (1) 戦後復興から豊かな時代へ
- (2) 東京オリンピック
- (3) わたしの60年代
- (4) その後の経済発展

3 会期

令和2年6月6日（土）から同年7月5日（日）まで

4 会場

鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

5 主催

鳥取県立博物館

6 関連行事

- ・昭和ハウス・富永館長の昭和レトロギャラリートーク
- ・講演会（オリンピック・スポーツ関係者によるもの）
- ・歴史講座 昭和のこちずぶらり（当館学芸員）

7 観覧料

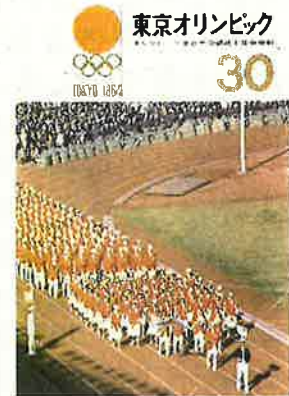
一般500円（団体・前売・大学生・70歳以上の方300円）

障がいのある方・要介護者等およびその介護者、難病患者の方、学校教育活動での引率者は減免（観覧無料）

令和2年度鳥取県立博物館企画展「60'S東京オリンピックとその時代」展示イメージ



1960 オリンピック
東京大会参加者
の寄贈資料(ポ
スター・パンフレ
ット類)
その他、鳥取県
出身選手ゆかり
のものまで



ミゼット、自動販売機、デパートの屋上にかつてあった遊具…そして、昭和30~40年代の日常の一幕「台所」
をジオラマで再現



令和2年度企画展

THE フィンランドデザイン展

～自然が宿るライフスタイル～（仮称）

開催要項（案）

1 趣旨

フィンランドは美しいデザインの宝庫である。人々が癒され、長きにわたり日々使い続けているそのデザインは、大いなる自然を忘れないという考えに裏付けられており、人々は建国前から大地の豊かさを生活に取り入れ、そのライフスタイルを愛してきた。自然の恵みは、優れたアーティスト、デザイナー、建築家を生みだし、彼らの活躍により洗練された近代的な社会が確立された。その積み重ねは、より優れたフィンランド独自のデザインを今も生み出し続け、魅力的なその製品は世界各国で支持されている。

本展では、200年にわたりフィンランドという国を支えたテキスタイル（染織品）の歩みを中心として、生きとし生けるものと共存するフィンランドの人々の豊かな考え方や彩りに溢れ、創造に満ちたデザインの数々を、ヘルシンキ市立アートミュージアム、およびヘルシンキ・デザインミュージアムのコレクションを中心に約200点の資料で紹介する。フィンランド同様に自然が豊かで、優れた手仕事の残る鳥取県で、温かみと洗練さを兼ね備えたフィンランド・デザインの世界を楽しむ機会とする。

- 2 会期等 令和2年10月10日(土)～11月15日(日)
休館日：10月26日(月) ※開館日数36日間
- 3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主催 鳥取県立博物館、NHK鳥取放送局ほか
- 5 監修 ヘルシンキアートミュージアム（HAM）
- 6 後援 フィンランド大使館
- 7 協力 ヘルシンキデザインミュージアム、ムーミンミュージアムほか
- 8 企画協力 S2株式会社
- 9 制作協力 NHK プロモーション
- 10 観覧料 一般1000（800）円 ※（ ）内は前売・20名以上の団体
- 11 会期中の関連事業（予定） 特別講演会や展示解説などを開催予定。
- 12 問合せ先 鳥取県立博物館 美術振興課 三浦努（TEL. 0857-26-8045）

令和2年度企画展

「THE フィンランドデザイン展」

展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



トーベ・ヤンソン(ムーミンの作者)による水彩画



子ども部屋の再現



夏のコーデージュをイメージしたパターンサンプル



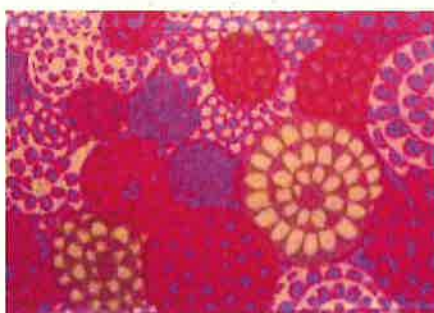
可愛らしいデザインのベビーグッズの数々



フィンランド一般家庭の室内再現



服飾デザインなどの展示イメージ



鮮やかな染色(プリント柄)デザイン



斬新なガラス工芸作品

令和2年度企画展
シリーズ ミュージアムとの創造的対話 03
アーティスト／コレクター 何が価値を創造するのか？(仮称)
開催要項(案)

1. 企画概要

鳥取県立博物館は、昭和47年の開館以来今日まで、調査研究に基づく資料の収集や展覧会及び教育普及プログラムを通して、文化芸術を保存し、次世代へ継承していくための活動を行ってきました。これをさらに広げ、オープンエンドな「未来の美術館」の姿を描くための試みとして、シリーズ「ミュージアムとの創造的対話」をはじめました。この企画展は、「ミュージアム」という場所や従来の枠組みにとらわれないという精神の下、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させて、ミュージアムを批評的な視点を持ってながめ対話していきながら、これからの美術館／博物館のあり方、その可能性を模索するものです。

第3回目の今回は、価値の創造者としての「アーティスト」と「コレクター」をテーマに、ある個人コレクターのコレクションと、当該コレクションに収集されているアーティストの新作による展示を行います。

2. 会期:令和2年11月28日(土)～12月27日(日) 30日間

3. 会場:鳥取県立博物館2階 第1～第3特別展示室、鳥取県内の文化施設・文化財史跡、空き施設等

4. 料金:600円 (前売り・団体 400円)

5. 主な出品予定作家:原口典之、小林正人、村岡三郎(物故) ほか

6. 主催:鳥取県立博物館

7. 関連事業:特別講演会やトークイベント、展示解説を開催予定。

8. 問合せ先 鳥取県立博物館 美術振興課 赤井あずみ
(TEL. 0857-26-8045)

原口典之 | 1946年横須賀生まれ。日本大学芸術学部卒業。1977年、国際美術展「ドクメンタ6」（ドイツ）に初めて日本人作家として選ばれ、廃油を満たした巨大な鉄のプールを発表、欧米中心の美術界に衝撃を与える。パリ、デュッセルドルフなど欧州の美術館での個展を重ね、テートモダン（イギリス）やMoMA（ニューヨーク）など国内外にパブリックコレクション多数。



《F4 Phantom KURAYOSHI-YOKOHAMA-HANAMAKI-KURAYOSHI》
2009、木・アルミニウム（BankART NYK 展示風景）



《物性 I》2012、鉄・オイル（ARTBASE 百島）

村上三郎



《IRON Bed》1979、鉄

渡辺英司



《星の名前》1997、ダイス・油彩



小林正人



《A pair of artworks, exhibited separately = LOVE》
1997、油彩・カンヴァス

藤澤恵理子



《（タイトルなし）》
1990、パステル、コンテ、木炭、
アクリルペイント／紙

松澤 宥



《白い円》シルクスクリーン／紙

岡本太郎とクルト・セリグマン（仮称）

開催要項（案）

1 趣旨

岡本太郎（1911-96）に最も影響を与えた芸術家として知られるクルト・セリグマン（1900-62）と岡本との交流を紹介する展覧会である。

パリに滞在中の1933年、前衛芸術家の団体アブストラクシオン・クレアシオン協会に参加した岡本は多くの前衛芸術家たちとの親交を深め、なかでもセリグマンとは最も親しい間柄であった。造形の上でも、1934年頃のセリグマンの作品と岡本の《空間》《リボン》のシリーズに類似性が認められるほか、両者共に生涯「リボン」をモチーフとした作品を制作しており、岡本はセリグマンの影響を濃厚に受けたといえる。またセリグマンによる1930年代前半の言説は、岡本が後に提唱することとなる「対極主義」と大きな関係があると考えられる。1935年には、セリグマン、岡本、並びにヴェリアミーの3人でネオ・コンクレティスムを結成し、パリで展覧会も開催した。また1936年にセリグマンがアルレット夫人と共に東京を訪問した際、パリの岡本太郎に代わり父・一平の手配によって、セリグマンは日本橋・三越百貨店にて個展を開催しており、「ネオ・コンクレティスム」が日本で脚光を浴びる契機となった。

1939年、活動の拠点をアメリカ・ニューヨークへと移したセリグマンは、1940年代以降ニューヨーク派シュルレアリストの重鎮として活躍し、パリ時代の芸術家仲間をニューヨークに次々に招いて紹介した。1953年には岡本太郎もニューヨークで個展を開催している。また、1951年東京都美術館で開催された読売アンデパンダン展におけるマーク・ロスコやジャクソン・ポロックなどの27名のアメリカ人芸術家の出品、さらに1956年の「世界・今日の芸術展」に出品された8名16点の出品は、いずれも岡本とセリグマンの友情によって実現された。

本展では、岡本太郎の盟友であるクルト・セリグマンの作品を岡本の作品とともに紹介し、岡本芸術の形成過程を探ると共に、両者の友情によって第二次世界大戦後の日本の美術界にもたらされた影響の意義について検証する。

2 会期等 令和3年2月11日（木・祝）～3月21日（日）

休館日：会期中の毎週月曜日 ※34日間

3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 主催 鳥取県立博物館、読売新聞社、美術連絡協議会ほか

5 企画 川崎市岡本太郎美術館

6 入場料 一般800（600）円

7 会期中の関連事業（予定）

特別講演会や展示解説などを開催予定。

8 問合せ先 鳥取県立博物館 美術振興課 友岡真秀（TEL. 0857-26-8045）

令和2年度企画展

「岡本太郎とクルト・セリグマン展(仮称)」

展示イメージ(主な出品予定作品)資料



岡本太郎《空間》1934-54年



岡本太郎《傷ましき腕》1936-49年



クルト・セリグマン
1930年代



クルト・セリグマン
《La Combat》
1934年



クルト・セリグマン
《ガラス絵》1940年頃



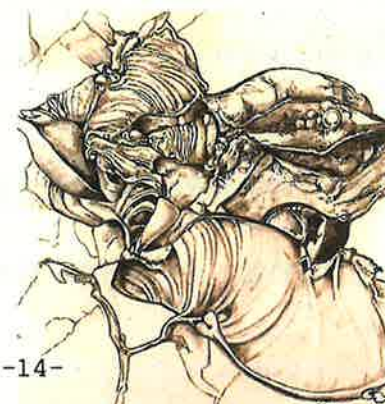
クルト・セリグマン
《Amphitrite》1946年



クルト・セリグマン
《Ecosaise》1953-54年



クルト・セリグマン
《Evocation》1955年
(1956年「世界今日の
芸術」展出品作)



クルト・セリグマン
《Metamorphosis》
1958年

令和3年度企画展開催計画（案）

分野	企画展名（仮称）	会期
自然	QooDZILLA!! 世界のクジラ展 （読売新聞との連携企画展）	令和3年7月17日 ～ 8月29日
人文	とつとりの乱世 —因幡・伯耆からみた戦国時代—	令和3年10月9日 ～ 11月7日
美術	受贈記念 Kコレクション展	令和3年4月10日 ～ 5月9日
美術	東郷青児とパリに学んだ画家たち —損保ジャパン日本興亜 美術館コレクションを中心に	令和3年11月20日 ～ 12月26日
美術	巨匠を夢見た江戸の女性絵師たち	令和4年2月11日 ～ 3月27日

2021年度企画展「QooDZILLA!! 世界のクジラ展(仮)」概要

- 1 **趣旨**：クジラ類は、恐竜よりも大きい地球史上最大の動物であるとともに、陸上から海中生活への高度な適応を果たした特筆すべき哺乳類である。しかしながら、多くの人々にとってクジラ類は、大型クジラの雄大きさや水族館等で見られるイルカ類の愛らしさ、かしこさなど、ごく限られたイメージが先行しており、野生動物としての実態については理解が十分であるとは言えない。

本展覧会では、クジラ類の進化や水中生活への適応の様子を概観するとともに、形態や生態の多様性、とくに採餌や繁殖行動など、動物としてのなまなましい姿にスポットをあてて、海中哺乳類としてのクジラ類の進化と生態を紹介する。また、鳥取県で漂着等があったクジラ類の記録や歴史資料に登場するクジラ類等を通して、鳥取の人々とクジラ類との関わりを考える。

- 2 **会期**：2021年7月17日(土)～8月29日(日)：44日間(予定)

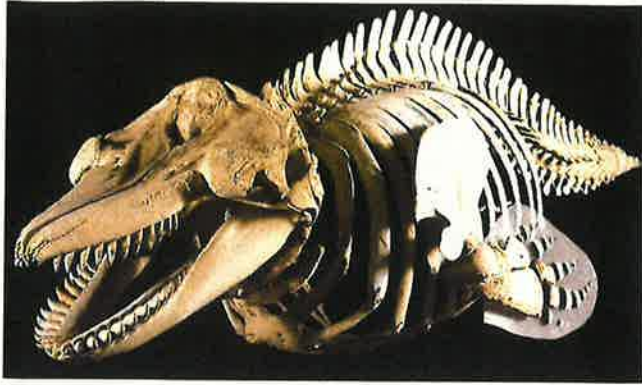
- 3 **会場**：鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

- 4 **借用先・協力団体等**(検討・交渉中)／国立科学博物館・東京海洋大学・日本鯨類研究所・大阪市立自然史博物館・きしわだ自然資料館・富山市科学博物館・鳥羽水族館・太地町くじらの博物館・アクアス・下関海洋科学アカデミー鯨類研究室・海響館・沖縄県立博物館

5 展示内容

- クジラとは?：哺乳類(胎児の「毛」、乳児の「舌」)／分類(ヒゲクジラとハクジラ)
- クジラのくらし：食事(歯と舌骨、クジラひげ)／恋(闘争、「うた」)／寿命(歯、耳垢)
- 海の哺乳類：クジラとウシ／カイギュウ(ジュゴン、マナティー)／鱈脚類(アザラシ、アシカ)
- とっとりのクジラ：日本海のクジラ「オウギハクジラ」、漂着記録、遺跡のホネ、工芸品
- 関連イベント：クジラの骨をくみたてよう!、ギャラリートーク

「QooDZILLA!! 世界のクジラ展」展示資料イメージ



シャチ全身骨格



イルカ類剥製・レプリカ



イッカク全身骨格



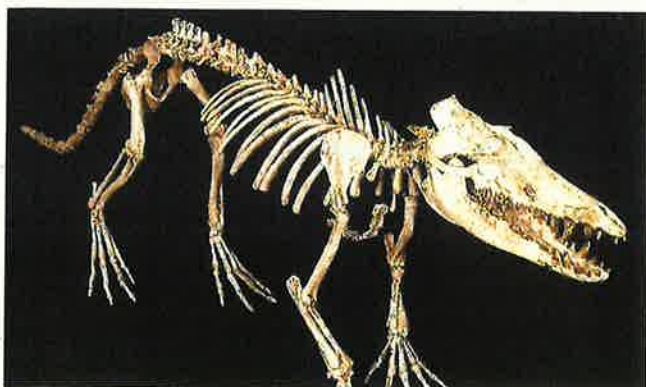
シロナガスクジラのクジラひげ



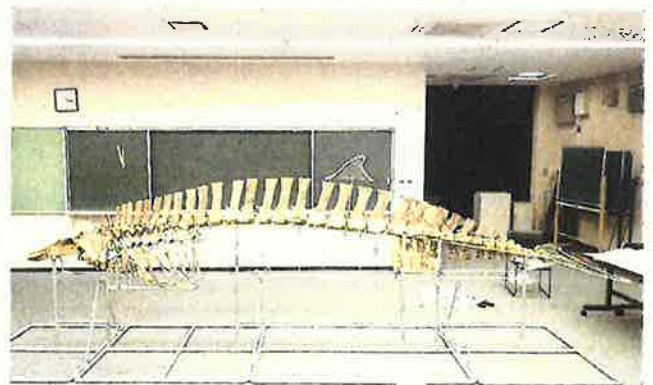
ジュゴン剥製



セイウチ剥製



「クジラの祖先」パキケタス骨格復元



オウギハクジラ全身骨格 (組み立てイベント用)

企画展「とつとりの乱世—因幡・伯耆からみた戦国時代—」展

1 概要

戦乱の時代である中世においても、鳥取県の旧域である因幡・伯耆国では様々な歴史がつむがれてきました。特に鳥取県の戦国時代は、毛利・尼子・織田氏などの全国的にも著名な戦国大名の勢力同士が接する「境目」とよばれる地域でした。そこには強力な戦国大名のお膝元では見られない、複雑かつ興味深い歴史の舞台となっていました。本展示では様々な資料に基づきながら、知られざる鳥取県の戦国時代を知るための展示を行います。また、因幡・伯耆国の歴史を通して広く知られた「戦国時代」の新たな知見・研究成果を紹介します。

近年の『新鳥取県史』が全県的な調査を行った成果を踏まえ、鳥取県内に所在する文書を展示します。鳥取県内に残されている戦国期の文書は全国的には非常に少ないですが、その内容の豊かさにおいて決して劣るものではありません。鳥取県として戦国時代を題材とした展示を行ったことはなく、因幡・伯耆国の戦国時代の資料を広く紹介する初めての展示となります。

また、県外からの優品についても展示を行います。織田信長・羽柴秀吉・毛利元就・吉川元春などの人物にかかわる重要な古文書・道具・肖像画などにくわえ、山名氏・南条氏などの地域と密着した領主たちのゆかりの品も全国的に借用し展示します（展示品イメージ参考）。

鳥取藩士の中には尾張・美濃・三河・近江・播磨などの戦国時代の武将たちの末裔たちが多、その遺品やゆかりの品々・戦国期池田家の歴史にかかわる資料も展示します。さらに、近年白熱する山城についても図面や3Dを用いて紹介します。

鳥取県の中世史については「鳥取城攻防戦」などが知られるのみで、ビジュアルとしてそれらに接することができる媒体も少ないのが現状です。そこで、歴史漫画を手掛けた漫画家に武田高信・杉原盛重・尼子勝久・吉川経家などの人物と展示資料に関するイラストを制作してもらい、それをパネル・映像等に利用することで来館者に鳥取県の戦国時代についてイメージを持っていただくことをめざします。

2 会期 令和3年 10月9日（土）～11月7日（日）

3 会場 鳥取県立博物館第1、第2特別展示室

4 入館料 一般700円（前売・団体・70歳以上・大学生500円）

※次の方は無料。高校生以下の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者

- 5 構成
- 1章 乱世を孕んだ因伯（室町末～戦国前期）
 - 2章 乱世に翻弄される因伯（戦国中期、尼子vs毛利）
 - 3章 乱世を克服する因伯（戦国末、尼子再興戦・毛利vs織田）
 - 4章 池田氏の”センゴク”（池田家の戦国時代の紹介）
 - 5章 鳥取藩士たちの履歴書（藩士家の紹介）

※古文書については原則全文翻刻・読み下し・大意を紹介、重要部分については拡大写真に直接翻刻と大意を付す。



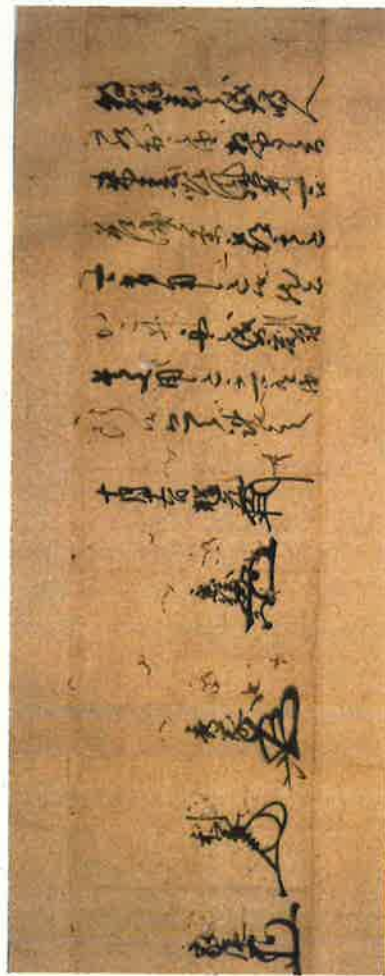
鉄■(金+青)十二間筋兜 (伝山中
鹿介所用、吉川史料館)



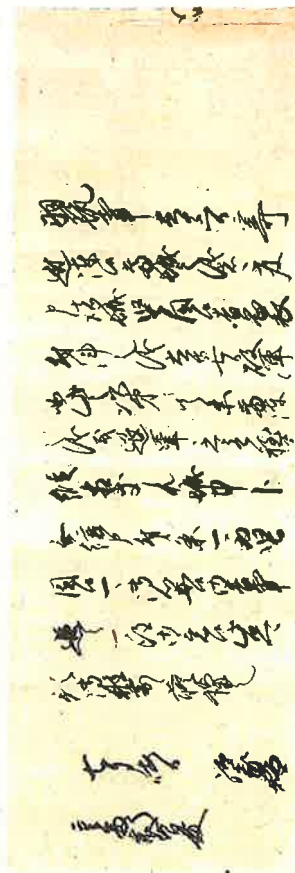
豊臣秀吉木像 (大阪城大守閣所蔵)



毛利元就御座備図
(毛利博物館)



豊臣五大老連署状 (菅家文書、当館寄託)



吉川経家自筆書状 (吉川家文書、国
指定重要文化財)

令和3年度企画展

受贈記念 Kコレクション展 (仮称)

開催要項 (案)

1 趣 旨

鳥取県立博物館では令和2年度に、県内の個人コレクターより約400点の作品から成る充実したコレクションの寄贈を受ける予定である。このコレクションは現代版画を中心に油彩画、彫刻、工芸から書にいたる広いジャンルにわたり、作家としても前田寛治、須田国太郎、林武といった日本人作家のみならず、ジョルジュ・ルオー、パブロ・ピカソ、アントニ・タピエスといった海外の高名な作家を含んでいる。この大コレクションの寄贈を受けて、県立博物館の美術部門の近現代美術コレクションは質量ともにさらに充実し、とりわけこれまで所蔵作品が比較的少なかった現代版画について一挙に作品の厚みが増すこととなる。

この受贈を記念して、県立博物館では「受贈記念 Kコレクション展」を開催することとする。この展覧会ではコレクションを代表する優品を通して、日本と海外の近現代美術の流れを概観するとともに、美術の表現の多様性と可能性を紹介する。

令和6年度には新しい県立美術館の開館が予定されており、今回の展覧会では新しい美術館においてもコレクションの主要な一角を占めることとなるこれらの作品を初めて公開し、新しい美術館の建設に向かう気運を盛り上げていくこととしたい。

- 2 会期等 令和3年4月10日(土)～5月9日(日)
休館日：会期中4月の毎週月曜日 開館日数27日間
- 3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主催 鳥取県立博物館
- 5 入場料 一般600(400)円
- 6 会期中の関連事業
展示解説などを開催予定。

令和3年度企画展

「受贈記念 Kコレクション展(仮称)」

展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



前田寛治《セーヌ河畔》1925年



ルオー《道化師と子供》1930年



ルオー《大太鼓を叩く道化師》1930年



須田国太郎《秋晴れの疎水》1948年

令和3年度企画展

東郷青児とパリに学んだ画家たち

—損保ジャパン日本興亜美術館コレクションを中心に（仮称）

開催要項（案）

1 趣 旨

東郷青児は1897（明治30）年に鹿児島に生まれ、5歳で東京に転居した後、青山学院に学びました。若くして西欧の前衛的傾向の美術に触れ、1921（大正10）年に渡仏した後は、最初は未来派、さらにキュビズムやシュルレアリスムなど当時パリで勃興していた様々な芸術運動に刺激され、独自のスタイルを編み出しました。1928（昭和3）年に帰国した東郷は二科展に滞欧作23点を特別陳列し、中心的な存在として活動する傍ら、装丁や挿絵、広告デザインから壁画まで広い分野で多くの仕事を手がけました。戦後二科会再建の中心的存在として、文化交流に力を尽くし、パリ市から文化功労章を贈られています。

パリに憧れ、パリに渡った画家は東郷だけではありません。鳥取県出身の前田寛治もほぼ同じ時期にパリに留学し、アンドレ・ロートのもとで学びます。この時期、佐伯祐三ら共にパリに学んだ若き画家たちは帰朝して1930年協会を結成し、後の独立美術協会の母体となります。二科会と独立美術協会は激しく競い合うように活動を続け、里見勝蔵、児島善三郎といった日本の洋画の草創期を彩る才能たちが輩出しました。

損保ジャパン日本興亜美術館は、東郷青児に関する340点にのぼる国内最大のコレクションで知られています。本展ではこの優れたコレクションの中から滞欧期を中心に初期から晩年にいたる代表作を紹介するとともに、同じ美術館が所蔵する藤田嗣治、中川紀元、岡田謙三ら、パリに学んだ日本人画家たちの作品、さらにはセザンヌ、ルノアール、ピカソといった彼らが学び、損保ジャパン日本興亜美術館が世界に誇る名品を紹介します。

- 2 会期等 令和3年11月20日（土）～12月26日（日）
休館日：12月6日 ※開館日数36日間
- 3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主 催 鳥取県立博物館
- 5 特別協力 損保ジャパン日本興亜美術館
- 6 入場料 一般800（600）円
- 7 会期中の関連事業 特別講演会や展示解説などを開催予定

令和3年度企画展

「東郷青児とパリに学んだ画家たち 損保ジャパン日本興亜美術館コレクションを中心に(仮称)」

展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



東郷青児《ピエロ》1926年



東郷青児《望郷》1959年



セザンヌ《りんごとナプキン》1879-80年



ルノワール《帽子の娘》1910年



ユトリロ《モンマルトルのサクレ=クール寺院》1925年

令和3年度企画展

巨匠を夢見た江戸の女性絵師たち（仮称）

開催要項（案）

1 趣 旨

江戸時代の女性絵師と言えば、最近になって相次いで映画やドラマで取り上げられた北斎の娘、葛飾応為がよく知られていることでしょうか。しかし、女性にとって制限の多かった江戸時代において、意外にも多くの女性絵師たちが活躍していた事実は、あまり知られていないのではないのでしょうか。本展覧会では、男性絵師たちが「巨匠」として注目を集める一方で、これまであまり注目されてこなかった女性絵師たちに焦点を当てます。

応為をはじめ、池大雅の妻玉瀾、久隅守景の娘で狩野探幽の弟子清原雪信など、「巨匠」の妻や娘、弟子として絵筆を執った彼女たちは、彼らの影響を受けつつも独自の表現を展開するに至ります。江戸時代後期には狩野派、文人画、浮世絵などジャンルを問わず多くの女性絵師が活躍の場を得るようになり、職業画家として自立し多くの弟子を持った絵師も存在しました。巨匠を夢み、その画才を如何なく開花させた彼女たちは、近年になり注目されつつあります。

本展覧会では、そのような女性絵師たちの作品を、彼女たちを絵の世界へといざなった「巨匠」たちの作品とともに紹介します。様々な環境下で社会とかかわりあい、自らの表現を追求した女性絵師たちの姿に迫ります。

- 2 会期等 令和4年2月11日（金・祝）～3月27日（日）
休館日：会期中の毎週月曜日（3月21日（月・祝）を除く）
開館日数40日
- 3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主催 鳥取県立博物館、NHK鳥取放送局ほか
- 5 制作協力 NHKプロモーション
- 6 入場料 一般800（600）円
- 7 会期中の関連事業 特別講演会や展示解説などを開催予定。

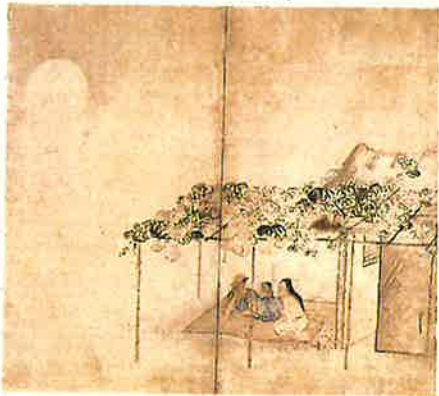
展示予定資料



◆葛飾応為《吉原格子先の図》太田記念美術館蔵



◆葛飾北斎《団扇と美人図》
個人蔵



◆久隅守景《夕顔棚納涼図屏風》
東京国立博物館蔵



◆清原雪信
《西行・江口贈答図》



◆狩野探幽
《若衆観楓図》



◆徳山(池)玉瀾
《溪亭吟詩図》



◆池大雅
《児島湾真景図》



◆歌川芳女《五節句の内三節の見立新材木町・新乗物町》



◆平田玉蘊《桐鳳凰図襖》



◆川鍋暁斎
《文読む美人図》



◆川鍋暁翠
《紫式部・清少納言図》